

## Chromebook と Google Workspace の導入で加速した ICT 先進校・足立区立西新井小学校の多彩な取り組み

東京都足立区にある西新井小学校は、児童数約 500 人と比較的規模の大きな学校です。早い時期から教育での ICT 活用が進み、区内他校をリードする存在となっています。同校では 2021 年度に Google for Education を導入。以前から ICT を活用していたこともあり、児童・教員に Chromebook や Google Workspace for Education(以下、Google Workspace)が浸透して、先進的な取り組みが次々と生まれています。



Nishiarai



足立区立西新井小学校

東京都足立区西新井本町 4-9-27  
<https://adachi.ed.jp/adnisi/>

1873 年、足立区最初の公立小学校として児童数 50 人で誕生し、1929 年に西新井尋常小学校として開校。すべての児童にとって「わかった」「できた」の経験ができる学びの実現を目指し、個の実態に合わせた指導を進める。情報教育と防災教育を重視し、全校で取り組む防災教育では防災マップ作成などの全国的なコンテストで表彰・受賞経験を持つ。学校は東武伊勢崎線・大師線西新井駅の近くに位置し、児童数 523 人、教員は 28 人。



Chromebook

542 台

## 01

### 教育 ICT の先導校として Google for Education がスムーズに浸透

西新井小学校は、GIGA スクール構想に基づく取り組みが始まる以前から ICT の教育活用に力を入れてきました。同校に赴任して 10 年目になる今野拓洋氏は、GIGA スクール以前の状況を次のように振り返ります。

「2016 年度から 2 年間、東京都公立小中学校 ICT 教育環境整備支援事業の指定校となり、PC 約 60 台が導入されました。その後も ICT 先導校やプログラミング教育推進校として PC、ソフトウェアが優先的に導入され、デジタルツールを積極的に活用してきた経緯があります。そのおかげで子どもたちも教員も一定の素地が出来上がっていたためか、GIGA スクール構想を受けて 1 人 1 台端末が導入されてからもあらゆるシーンで活用が進んでいます」。

同校の児童・教員に 1 人 1 台端末として足立区教育委員会が選定した Chromebook が配布され、使用を開始したのは 2021 年 5 月のことです。今野氏は Chromebook 以前の時代

から同校の ICT 教育を長い間見てきましたが、「他社製端末では子どもたちが自分でファイルに名前を付けてどのフォルダに保存するか考えなければならず、その点でつまづく子どもも多くいました。Chromebook は作業内容がクラウドに常時保存されるため、ファイルの保存や整理を子どもたちが意識せずに済むようになったことは魅力のひとつです」と話します。このような経緯から、Chromebook 及び併せて導入された Google Workspace への移行もスムーズに進みました。



## 02

### 共同編集・協働作業の推進で 主体的な学びの実践が進展

同校ではいま、実際にどういった ICT 活用がなされているのでしょうか。赴任して 2 年目、今年度は 4 年生を担当する小室由佳子氏は、特徴的な取り組みとして「1. Google Workspace のさまざまなアプリケーションによる共同編集・協働作業」、「2. Google Meet を使った遠隔地との交流」の 2 点をあげました。

体育の授業では、ベースボール型ゲームのルールや作戦会議を子どもたちに話し合いながら考えてもらい、その結果を Google ドキュメントで整理・共有しています。また道徳の授業では Google Jamboard を活用し、子どもたちの意見を設定したフォーマット上に記載し、全員の意見を一目で見られるように工夫しています。「学活、学級内の係を決める際なども、意見発表とその共有に Jamboard を使う場面が多いです。お休みしている子も参加できるのはとても便利に感じています」。(小室氏)

委員会やクラブ活動でも Chromebook と Google Workspace をよく使っています。共同編集・協働作業の例として、委員会活動ではクイズ集会で出題するクイズを子どもたちが Google

ドキュメント上で話し合いながら作成・編集し、その日休んだ児童も確認できるように Google Classroom で共有しています。またクラブ活動でも Google Classroom のルームを作り、その日取り組む内容や役割分担を児童たち主体で決定しています。

6 年生担当の今野氏は最近、社会の授業で Jamboard を利用するにあたり、従来のように下地となるテンプレートを今野氏があらかじめ作成しておくのをやめ、白紙の状態から子どもたちが自由に使えるようにしています。

「私が話し、子どもたちは聞くことが中心になる授業スタイルではなく、学びの主導権をもっと子どもたちに渡したいと思ったのがきっかけです」。(今野氏)

最初のうちは授業の内容を上手にまとめた児童の例を全員に見せ、考え方・まとめ方をアドバイスしていましたが、慣れてきてからは状況が変わりつつあります。「子どもたちが教科書の内容を読み取り、構成を考えながら各回のテーマについて 20 分程度の時間でしっかりまとめていくのを見て、驚いています。まとめ方は人それぞれで、付箋や矢印を使い関係性が見えるようにまとめる子もいます。いずれにしても各児童の視点がよく見えていいですね」と語ります。

足立区立西新井小学校



教諭  
小室 由佳子 氏

足立区立西新井小学校



教諭  
今野 拓洋 氏

## 03

### 遠隔地との交流や自発的な表現を さまざまなツールがサポート

Google Meet を活用した校外との交流では、今年度、大田区立道塚小学校の 4 年生と小室氏が担当する当校の 4 年生のク

ラスを Google Meet でつなげて、設定したテーマについて話し合う取り組みを行っています。昨年度は他の Web 会議システムを利用していましたが、「Google Meet のほうが子どもたちは直感的に使えますし、Google スライドで手軽に資料を共有したりもできるので、Google Workspace の各アプリケーションの便利

さを実感しています」と評価します。

今野氏も校外との連携を積極的に試しています。2022 年度はケニアやブラジル在住の方たちと Google Meet でつなぎ、それぞれの国を紹介しあいました。沖縄の観光協会との交流では、沖縄の自然や伝統的な暮らしについて教えてもらいました。また、同校は防災教育に力を入れているため、災害時の対応に関する児童の意見に、全国の水害被災自治体の防災担当課の方々からアドバイスをもらう「即席シンポジウム」も実施したことがあります。

Google for Education の活用によって感じている変化については、「字を書くのが苦手なノートなどに書くのは難しい子が Jamboard なら自ら進んで表現できていますし、意見を伝えるのが苦手な子も Google スライドでたくさんの意見を出せています」と小室氏がエピソードを話してくれました。対して基礎学力の変化に関して、今野氏は「始めたばかりですし、あくまで私が感じているというレベルの話ですが」と前置きしたうえで「社会の授業で白紙の Jamboard を渡して子どもたちに任せるようになってから、理解度が上がり、テストの点数も良くなっている気がしています。子どもたち主導の学習スタイルへの変化に期待を感じています」と手応えを語ります。

また、小室氏は Chromebook や Google Workspace をす

べての授業で必ず使おうとしているわけではないものの、教員から指示するまでもなく子どもたちが主体的に連絡事項の板書を撮影して Google Classroom で共有してくれています。その理由は、今野氏の担当する学年には中国とアフリカから来た日本語を話せない児童が 2 人いますが、「Chromebook ならすぐに翻訳できるため、通訳専用デバイスを別途使うよりむしろ簡単ですし、子どもたちも他の児童たちと交流しやすいようです」というエピソードも教えてくれました。



## 04

### 資料閲覧、課題配布、会議の振り返りなど 教員業務でも利便性が拡大

一方で教員にとっての Google for Education 導入効果としては、「クラウドベースの Google Workspace のおかげでいつでもどこでも必要な資料やデータの閲覧、課題の配布ができるようになり、働き方の柔軟性が増しました」と小室氏。教員間で打ち合わせを行う際も Google スプレッドシートを活用しており、「わざわざメモしなくても話した内容がすべて残っているので、あとから確認するのに便利です。テーマごとにタブを使い分けることで利便性も高まっています」とその便利さを強調します。

また今野氏は「子どもの学びがデータとしてすべて残るので、通信簿の所見が書きやすくなり、所見を書くスピードも速くなったと実感しています」と話します。ほかにも職員会議等の資料を

Google Classroom や Google ドライブで共有し、大量の紙のプリントを持ち歩く必要がなくなった点も高く評価しています。保護者への発信も手軽になり、例えば校外活動時の写真を Google Classroom に上げ、保護者が子どもたちの様子を確認しやすくなったなどの効果を紹介してくれました。

両氏は総じて、児童の意見を拾いやすくなった、情報共有しやすくなった、欠席児童とも Google Classroom を通じてやり取りできるようになった、といったメリットを感じています。そのうえで、小室氏は「子どもたちの学びのポートフォリオをまとめる場を Google サイトで作ってみたい」、今野氏は「Chromebook や Google Workspace をもっと活用して子どもたちが主体的にアウトプットできる機会をさらに増やしていきたい」と、今後にも思い描く取り組みについても語ってくれました。

取材日: 2023 年 10 月 31 日

## Google for Education

いつでも、どこでも、予算に応じて使える教育テクノロジーソリューションです。

<input checked="" type="checkbox"/> 簡単操作	<input checked="" type="checkbox"/> 手ごろな価格
<input checked="" type="checkbox"/> 高い汎用性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い効果

### 1

#### chromebook

教育向けに設計され、授業向けに開発された軽量で耐久性の高い共有可能なノートパソコン

### 2

#### Google Classroom

教師と児童生徒向けに構築された学習プラットフォーム

### 3

#### Google Workspace for Education

時間や場所を問わず学校全体で共同利用できるクラウド型教育プラットフォーム

### 4

#### Chrome Education Upgrade

1つの端末から同じドメインのすべてのChromebookを設定  
シンプルなクラウド型管理コンソール

